

平成 28 年 安孫子賞 (昭和 35 年創設 第 57 回)

○ 川上 等、川上 絹子 殿 (今金町 水稲・施設野菜複合経営)

等氏は昭和 43 年に就農、平成 16 年から狩場利別土地改良区総代、同 18 年から今金町ミニトマト振興会会長を歴任。絹子氏は昭和 48 年に等氏と結婚し就農、平成 6～20 年、今金町農業協同組合女性部長、同 9～11 年、JA 道南地区女性協議会副部長、同 15～20 年、今金町「もぎたて市」代表を歴任。平成 21 年に指導農業士の認定を受ける。

ご夫妻は、水稲単作経営における米価下落や減反による経営の悪化を打開するため、施設園芸を取り入れ、夫婦でミニトマトの栽培法の改善と所得の向上を実現し、現在、水稲 13ha、施設野菜 2.2ha の複合経営を営む。また、ミニトマト産地形成に尽力し、新規参入者の研修受け入れ、栽培技術指導等地域の担い手育成に献身的に取り組んでいる。表彰に値する業績は以下の通りである。(1) 施設野菜導入による複合経営の収益確保

導入当初 (平成 2 年) は、ミニトマトに加え小カブ、ホウレンソウも作付けし、ビニルハウスの棟数を増やしたが、労働力を集中させるためミニトマトに特化した。営農計画の作成や生産費調査など経営的取り組みにより自身の所得を向上させたのみならず、その成果は地域での施設野菜導入を促し、営農改善に波及した。

(2) 生産振興会と連携し産地形成に貢献

ミニトマト振興会が設立された平成 4 年からの中心メンバーとして尽力し、生産者は 35 戸に増えて、等氏は同 18 年から現在まで会長として、品種の選定・統一、共同育苗や選果による品質向上を指導し、産地形成に貢献している。産地では、有機質肥料の施用、エコファーマー認証取得の取り組みで、差別化を図り、「セブンキッス」の名称で、関西地区を中心に出荷して、平成 26 年の販売額は 3 億円を超え、1 戸あたりの平均は約 900 万円となった。

(3) 地域振興および担い手育成

「地域を支えるのは次の世代」との考えから、20 年以上も前から農業実習生を受け入れ、新規参入希望者だけでなく、関係機関の職員の研修にもきめ細かに対応している。絹子氏は、指導農業士として、研修生の思いや悩みを聞き、地域での暮らし方、農村社会でのあり方を教授するなど人生の先輩として、包容力を持って接しており、研修生が町内外で就農など担い手確保に貢献している。また、絹子氏は、結婚相談員として、農業青年部と都市近郊女性との農業体験交流会等を支援し、地域振興のための幅広い活動に献身的に取り組んでいる。